

# 卓見 異見

ふじさわ・くみ 96年に日本初の投資信託評価会社を起業。99年同社を世界的格付け会社に売却後、00年にシンクタンク・ソフィアバンクの設立に参画。現在、国内外の企業経営や国際情勢について、各種メディアで発信中。

ソフィアバンク表  
副代表  
藤沢 久美



ベンチャー企業の社長がネットで日々の雑感を書く「社長ブログ」というものが、数年前に話題になったが、このブログをビジネスチャンスに変えている中小企業経営者がいる。川崎市にあるプラステック金型・成形業のモルテックの松井宏一社長だ。平日に毎日更新される松井社長のブログには、多くのファンがついている。

ビジネスに関わるものなら、誰もがドキッとしたり、ハッとしたりするような気づきとなる情報が満載だからだ。ブログを書くにあたって、松井氏が気をつけていることは、「単なる日記にしないこと」「読む人が楽しく、得する内容であること」「平日、毎朝時間を決めて、30分間で書き上げる」とだぞうだ。

「不況きっかけにブログ」を始めたのは、リーマン・ショックの直後のことだった。急な受注減で、3カ月間仕事がなくなり、どうするべきかを悩み、さまざまな業種転換を考えたと、工場長が松井社長に言った一言に始まる。「自分のやりたいこと、自分のできることを深めるべき時じゃないですか」。その言葉に松井社長は、自分の得意なこと、発信を通じて人とのつながりを深めることだと痛感した。金型技

## モノづくり精神とネット

だ。140字という少ない字数の中で、気軽に発信できるツイッターは、ブログを読んだ人たちが、気軽に松井社長にその感想や意見を投げ返すことができる。こうして、地域を越えた経営者たちとのつながりを得て、今ではツイッターで知り合った20人ほどの社長同士で、互いの工場訪問や経営者としての知恵や技術の交換を実現している。

さらには、同社が自社の新たな金型技術を生かして製作・発売したオリジナル雑貨のネーミングなどもツイッターを通じて応募し、金型メーカーとはおよそこれまで縁のなかったであろう女性からも

提案が届くようになった。ブログやツイッターといったソーシャルネットワークサービスを見事に事業に生かしている松井社長だが、それは単にネットの知識が豊富であるからだけではない。松井社長は自らの時間を投じる対象に、いつも一生懸命だ。一日一度のブログも、読む人が得をするようにと心得ることは、裏返せば、読む人の時間を無駄にしないということだろうし、ツイッターでもきめ細かな返信を通じて、松井社長に投げかけをした人の心が不安になるような無駄な時間をつ

# 新たな「つながり」で創造力

努力の蓄積を大切に  
こつとした松井社長の姿勢は、当然のことながら本業そのものの隅々にまで行き渡っているのだと思う。世間では不況のあおりからコスト最優先で技術に対するこだわりが減り、妥協の産物が生まれやすくなっているが、松井社長は違う。コストを下げることはなく、自社が持つ技術を生かして、デザイナーの求めるこだわりを実現することに精力を費やし、その上で、いかにコストを下げるかを考える。コストを下げる代わりに、技術面において妥協するようないことを許さない。

それは言い換えれば、父の代から続いてきた会社の積み重ねや一人ひとりの社員の努力の積み重ね、取引先のデザイナーの思いの積み重ね、そのすべてを無駄にしない行為でもある。モノづくりとは、一人で行えるものではない。多くの人の努力の積み重ねがものを生み出し、多くの人にその恩恵を与える。まさに「つながり」があつての事業だ。松井社長は、ネットという新たな道具との出会いを通じて、モノづくりの世界を会社や工場という物理空間を超えた、新たなつながりによる世界へと進化させつつある。

(次回から執筆陣が代わります)